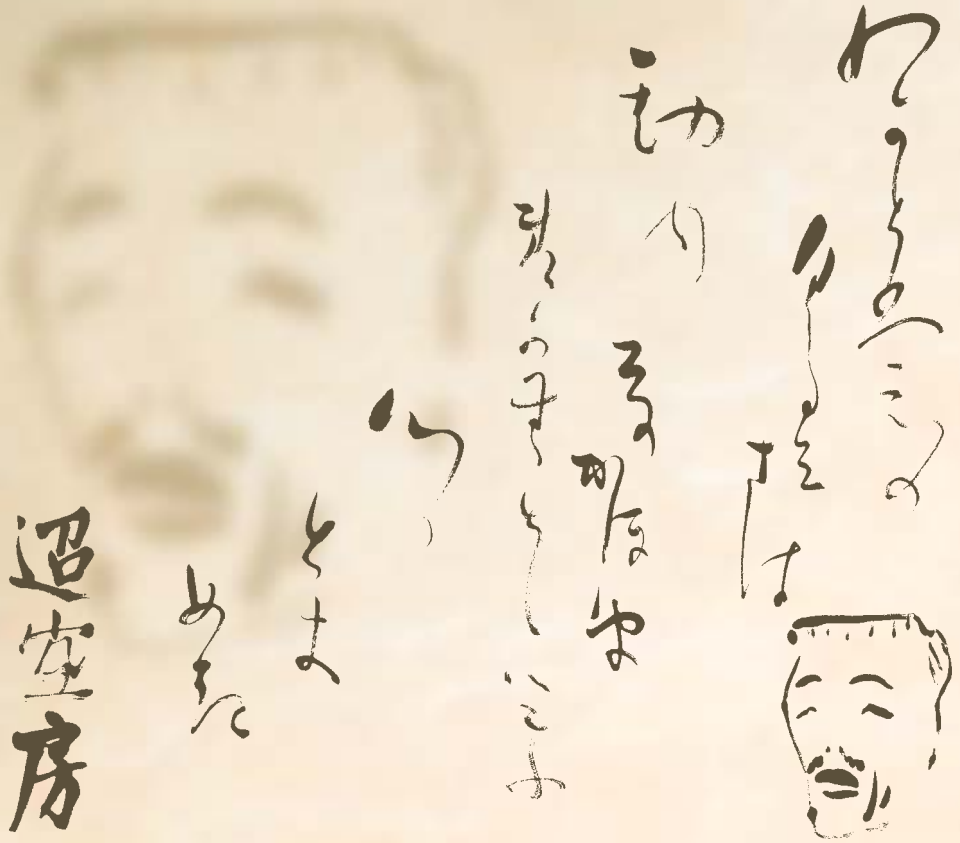
あなたと博物館

松本市立博物館ニュース　No.170　2010.9.1

特別展

胡桃沢コレクションⅡ



胡桃沢コレクションは、松本地方の民俗学をはじめ文化芸術に多大な業績を残した胡桃沢勘内が多彩な人物との交流によって蒐集し、胡桃沢家より当館へ寄贈された資料群です。

平成21年度上半期までに寄付された資料総数は約1万3千点に及び、全国的に知られる「自作正岡子規之像」、文化勲章受章者柳田國男や同斎藤茂吉らに関連する資料も含まれています。

今回は、平成15年度の開催について第2回目の公開で、従来まで未公開であった多くの資料を含めた、約1,000点を展示及び解説します。

［後援］国立大学法人信州大学

釋迢空の軸『勘内の顔』
釋迢空（折口信夫）が友人・勘内の似顔絵を描き、歌を添えている。歌は「わがともの　くるみさは　勘内そのかほを　かかむとおもう　心のときめき」と詠まれている。

2010年 9月18日㊏ ▸ 11月7日㊐　51日間　会期中無休

もくじ

誌上博物館◇特別展『胡桃沢コレクションⅡ』によせて …… 2-3
松本市の古墳時代～古墳の中の装身具～ …… 4-5
博物館ノートから◇学都松本―変わらない博物館、変わる博物館 …… 6-7
はんてんぼく …… 8

特別展『胡桃沢コレクションⅡ』によせて

はじめに

胡桃沢コレクションは碩学と多彩な交流の中で胡桃沢勘内（1885～1940）が蒐集したコレクションです。平成12年2月28日に第一次分が市立博物館へ寄贈されたのをはじめとして、平成22年8月現在までに約13,000点（平成22年8月現在整理済み資料数5,199件12,847点）の資料が収蔵庫に収められています。この膨大な資料群は、第一次分の寄贈から、このたびの特別展『胡桃沢コレクションⅡ』開催までの間に、企画展『胡桃沢コレクションⅠ』（H15）や平成14年からおこなっている博物館での子規忌（毎年9月19日の正岡子規の命日に故人を偲ぶ）のおりに一部を公開してきました。しかし、公開された資料は限定され、コレクションのほんの一端がお披露目されただけでした。

今回の特別展では、胡桃沢コレクションⅠ以後に寄贈された資料を中心に、できるだけ多くのコレクションを間近で見ていただけるよう展示構成をしています。特別展をより楽しむために、ここに、胡桃沢コレクションの多様さと奥の深さを紹介します。

『胡桃沢コレクションⅠ』オープニングセレモニー（H15.10.25）
圧倒的な質と量をほこるコレクションの一端が公開された。

珠玉の名品 ― 文学界編

コレクションのメインは、文学関係資料と民俗学関係資料です。文学関係資料では文化勲章受章者香取秀真・同高浜虚子をはじめ、伊藤左千夫・河東碧梧桐・長塚節らの書簡類や謹呈本など、著名な歌人・俳人との豊かな交流を示す資料が数多くあります。また、『アララギ』の代表的歌人であった島木赤彦・斎藤茂吉から勘内へ宛てた書簡（胡桃沢勘内宛島木赤彦書簡311通、同斎藤茂吉書簡92通）には、二人の文学への理想、未来への夢、

著者謹呈『柿本人麿　鴨山考補註篇』初版本
（斎藤茂吉が書いた胡桃澤勘内宛の荷札（写真右）付き）
書簡類や謹呈本だけでなく、荷札や名刺など「よくとっておいた」といったものが含まれていることが胡桃沢コレクションの魅力の一つ

挫折、苦悩など生々しい声が記され、勘内との信頼厚い関係をうかがい知ることができます。

文学関係資料の中で忘れてはならないのは、勘内憧れの人であった正岡子規にかかわりのある資料です。特に、子規忌にまつわる「自作正岡子規之像」（石膏製）・子規居士筆「悟不悟ノ歌」（軸）・竹の里人先生「寒牡丹返歌」（軸）などは、博物館のみならず松本市民にとってもかけがえのない宝物といえます。

子規忌のロビー展示（H21.9.19）
「自作正岡子規之像」を据え「悟不悟ノ歌」「寒牡丹返歌」の二幅をかかげ、へちま・鶏頭・柿などを供える

本特別展のみどころの一つは、この「自作正岡子規之像」が公開されることです。この像は勘内の遺言により門外不出でした。公開されたのは、平成8年に塩尻市で開催された第10回全国短歌フォーラム、平成13年に愛媛県美術館で開催された「子規100年 in 松山 特別企画展 正岡子規の絵」、平成15年度に開催した「胡桃沢コレクションⅠ」、そして

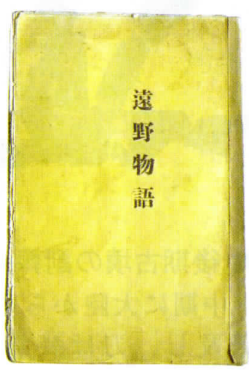
博物館での子規忌（平成14年～平成21年の9月19日、平成22年9月19日は109回目の子規忌）のみです。

自作正岡子規之像
子規像の外箱や和紙で作られた内箱覆などには勘内が像のために書き付けた文字、およそ5,500字がある。内容は像の作られた由来、制作の方法と関係した人物、取り扱い方など細かく記している。

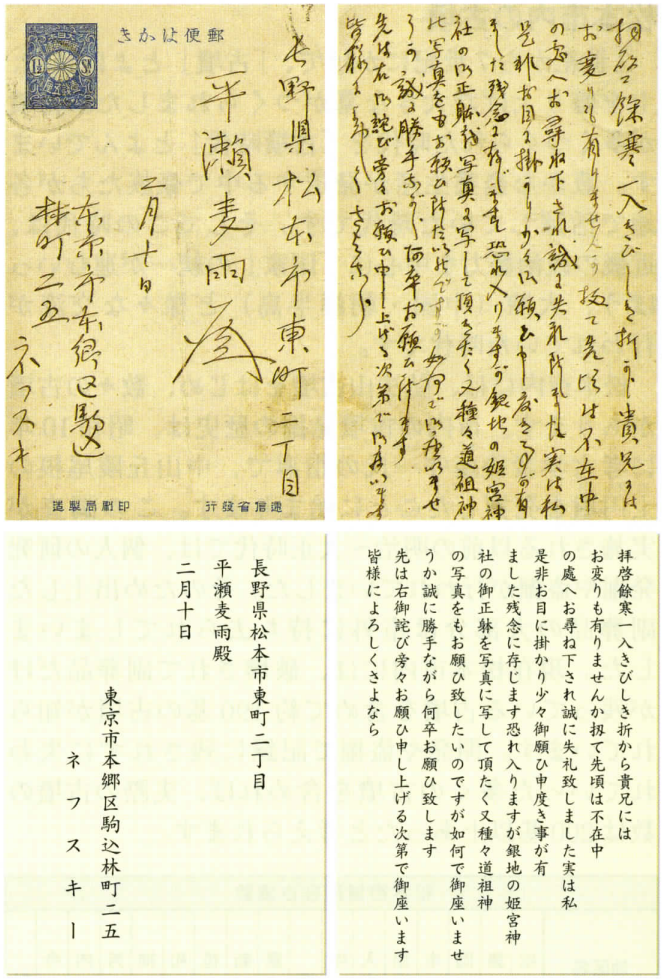
珠玉の名品 ― 民俗学界編

『遠野物語』発刊100周年の今年、民俗学にも注目が集まっています。

胡桃沢コレクションの民俗学関係資料は胡桃沢勘内宛柳田國男書簡132通（『定本柳田國男集』未収録のものを含む）や、同橋浦泰雄書簡74通、同ニコライ・ネフスキー書簡9通など交流の中で蒐集された書簡類が1,000点を超えます。また、『遠野物語』初版本（350部の内239号）や菅江真澄『ひなの一ふし』原本（菅江真澄直筆本）など、博物館にたずさわる者として憧れの人物たちにかかわる垂涎の資料が所狭しと収蔵庫に収められています。



『遠野物語』初版本（350冊のうち239号）
遠野物語は1910年、僅か350部余りが自費出版された。



拝啓餘寒一入きびしき折から貴兄には
お変りも有りませんか扨て先頃は不在中
の處へお尋ね下され誠に失礼致しました実は私
是非お目に掛かり少々御願ひ申度き事が有
ました残念に存じます恐れ入りますが銀地の姫宮神
社の御正躰を写真に写して頂たく又種々道祖神
の写真をもお願ひ致したいのですが如何で御座いませ
うか誠に勝手ながら何卒お願ひ致します
先は右御詫び旁々お願ひ申し上げる次第で御座います
皆様によろしくさよなら

長野県松本市東町二丁目
平瀬麦雨殿
二月十日

東京市本郷区駒込林町二五
ネフスキー

胡桃沢勘内宛ネフスキー書簡
ニコライ・ネフスキー（1892～1937）ロシアの東洋言語学者
彼の蔵書の『遠野物語』初版本は350冊のうち200号であったという。

おわりに

「胡桃沢コレクションⅡ」をより楽しむために、珠玉の名品―文学界編、民俗学界編としてコレクションの代表的資料を紹介してきましたが、コレクションを蒐集した胡桃沢勘内その人については述べてきませんでした。民俗学と文学関係に限定されますが、これほど多彩な人々と交流をもった勘内という人はどんな人であったのでしょう。関連文献によると歌人、民俗学・郷土研究家と位置付けられていますが、松本銀行取締役を務め、後には松本市議会議員にも推されるなど、実業界・政界でも活躍した人でもあります。前回の企画展以後の資料調査により明らかになったことも含め、胡桃沢勘内がどんな人であったのかは、特別展会場でのお楽しみにします。

特別展へ読者の皆様をお誘いして筆を置かせていただきます。

（松本市立博物館 学芸員／一ノ瀬 幸治）

松本市の古墳時代　～古墳の中の装身具～

松本市内の古墳

3世紀から7世紀にかけて、「古墳」とよばれる、土を盛り上げた大きな墓がつくられました。古墳が多くつくられた時代を「古墳時代」とよんでいます。豊かな農業生産が発達する中で豪族たちが各地で活躍していた時代です。そしてこの時代は、近畿の政治勢力を中心に「国家」の統一が進むいっぽう、大陸（中国・朝鮮半島）と様々な交流が行われていた時代です。

松本市内には、弘法山古墳をはじめ、数々の古墳があります。市内の古墳発掘の歴史は、昭和10年に考古学者後藤守一氏の指導で、中山丘陵尾根の土円墳を発掘したことに始まります。この調査が実施される以前の明治～大正時代では、個人の研究発掘や盗掘が行われていました。そのため出土した副葬品の大部分は市外に持ち去られてしまいました。現在松本市内には、破壊されて副葬品だけが残っている古墳を含めて約190基の古墳が知られています。開発や盗掘で記録に残されずに失われていった多くの古墳を含めれば、実際の古墳の数は200基以上あったと考えられます。

松本市域所在古墳数

地区名（旧町村）	松本	島内	岡田	本郷	里山辺	入山辺	中山	寿	島立	新村	笹賀	和田	神林	芳川	内田	今井	計
町村誌（M10）	5	0	0	2	3	0	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	16
東筑摩郡誌（T8）	0	1	1	3	6	0	4	1	0	1	0	0	0	0	0	0	17
松本市史（S8）	26	5	9	10	12	2	71	2	0	0	0	0	0	0	0	0	137
信濃考古綜覧（S30）	9	4	6	10	15	2	28	1	0	0	2	0	0	0	0	0	77
松塩筑誌（S48）	9	7	8	23	14	0	31	1	0	0	2	0	0	0	0	0	95
県史地名表（S55）	13	7	6	24	17	2	61	1	0	9	2	0	0	0	0	0	142
現在（H6）	13	10	12	21	17	2	88	1	0	14	3	1	0	0	0	0	182
備考（塚地名）									7	4	3			19			33

桐原健　1994　論文より抜粋

古墳の「中身」はなんだろう

古墳の埋葬施設、つまり遺体を納めた「石室（玄室）」には、死者が生前に大事にしていたものなど、様々な副葬品が入れられました。埋葬施設や副葬品は時期ごとに特徴があります。

■ 前期古墳の副葬品

この時期の副葬品は、鏡・玉類・石製品・武器・武具・鉄製生産用具などがみられます。

弘法山古墳（並柳）がこの時期に当たります。前方後方墳で、竪穴式石室から副葬品として、半三角縁四獣文鏡と呼ばれる鏡や、大量のガラス製小玉がありました（図1）。武器には鉄や銅でできた鏃（矢の先）や剣などがあります。この時期の鉄鏃はあまり実践的な形態ではありません。生産用具には短冊形鉄斧やヤリガンナなどの工具があります。

図1　弘法山古墳出土のガラス小玉

■ 中期古墳の副葬品

前期から引き続き鏡・玉類・石製品・刀剣などがある一方、新型の甲冑や馬具なども出現します。桜ヶ丘古墳（浅間）がこの時期に当たります。円墳で竪穴式石室を主体とし、副葬品として、金銅製の天冠（図2）、勾玉や小玉などの玉類、武具として長方板革綴短甲と衝角付冑、武器類などがあります。天冠は全国で40例余りの古墳から出土しているのみで、極めて貴重な資料です。

図2　桜ケ丘古墳出土天冠

■ 後期古墳の副葬品

中期に大陸からもたらされた武器・馬具などが普及し、刀は装飾されたものが多くなります。南方古墳（入山辺）がこの時期に当たります。大量の玉類（図3）や耳環（図4）が出土しています。

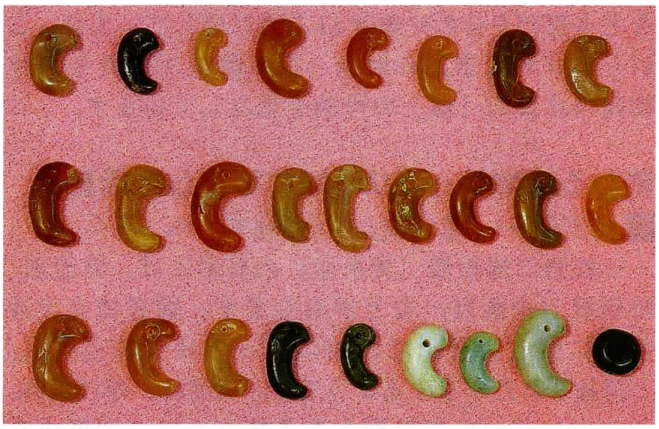


図3　南方古墳出土玉類

図4　南方古墳出土耳環

■ 終末期古墳の副葬品

仏教文化の影響が見られ、仏具・仏器も副葬品として出土します。しかし古墳の規模は小さくなり、副葬品も激減します。

副葬品の種類や組み合わせによって古墳の年代を知る手がかりとなります。しかし副葬品の組み合わせから単純に時期を決定することは困難で、土器などの個々の遺物も合わせて時期を判断していきます。

装身具に注目

古墳の副葬品の1つである装身具は、今でも私たちを魅了します。この装身具に注目してみましょう。装身具は、衣服とともに発達してきたと考えられます。古墳時代の人たちも、さまざまな装身具で身体を飾っていました。

耳環（イヤリング）・玉類・釧（ブレスレット）・足輪などがあります。また鏡は、豪族の権威の象徴として大切に扱われました。

市内の古墳からは、金銅製イヤリング、ヒスイ・メノウ製の勾玉、水晶製の切子玉、ガラス製の丸玉・小玉などが出土しています。人物埴輪から考えると、当時は男性女性にかかわらず装身具を身につけていたようです。

南方古墳の装身具は出土量が大変多く、約650個の装身具が出土しました。

主なものとして

□ 金銅・銀製イヤリング …… 5個
□ 碧玉・ヒスイ・メノウ製の勾玉 … 26個
□ 碧玉・ガラス製管玉 …… 2個
□ 水晶製切子玉 …… 24個
□ 琥珀製ナツメ玉 …… 数個

があります。このほかにも緑・空・紺・黄色の大小のガラス玉600個余りが出土しています（図5）。また古墳の副葬品だけでなく、同時代のムラで行われた祭りの場でも装身具は見つかっています。様々な装身具が古墳時代にはありました。

古代の人々にとってアクセサリーで身を飾るということは、現在の私たちのように美しく見せたい、自己主張をしたいというだけではありません。身を守るおまもりとして、呪術の能力を高めるため、権威を示すためなど様々な目的があったのではないでしょうか。

古墳時代の装身具にはどんな願いが込められていたのか、考古博物館平成22年秋季企画展で実際に見て感じてください。

図5　南方古墳出土装身具

（松本市立考古博物館 学芸員／中澤 裕美）

〈参考文献〉
①石野博信・岩崎卓也・河上邦彦・白石太一郎編　『古墳時代の研究』1～13　（1991）
②岩崎卓也著　『古墳時代の知識』（1984）
③桐原健「考古資料の郷土史的活用-松本市域の古墳分布より」『中部高地の考古学Ⅳ』（1994）
④竹内誠・梅澤実監修　『総合学習に役立つ②クイズでわかる日本の歴史』（2001）
⑤田中琢・佐原真編集代表　『日本考古学事典』（2006）
⑥村井嵓雄・望月幹夫・松尾昌彦　『古墳の知識Ⅱ出土品』（1988）
⑦松本市立考古博物館　『図録 松本平の古墳文化』（1989）

学都松本 ― 変わらない博物館、変わる博物館

はじめに
―学都松本を支えた博物館などの活動

松本市は《学都》といわれます。が、学都って何？とよく聞かれます。学都を辞典で調べると、「【学都】学校が多い都市。」という説明が多くあります。私は別稿で学都松本の様相について述べました（註1）。ここでは重複を避けて生涯学習・文化振興の視点から学都松本を支えたことがらを二つ紹介すると、先ず、明治三十七、八年戦役紀念館（以下「紀念館」と略す。）の開館、次に、「話をきく会」（註2）の活動をあげたいと思います。紀念館は明治39年（1906）9月21日に松本尋常高等小学校内に開館した、松本市立博物館の創始にあたる施設です。話をきく会は昭和4年（1929）、胡桃沢勘内、池上喜作らが始めたもので、中央から名士を迎えて開かれた知識の饗宴です。

以下、学都松本を創造する一環として「共に学ぶまちづくり」を進めるにあたり、先に述べた博物館と関連活動を事例に変わらないことがら、変わることがらについて述べてみます。

変わらない博物館 ―市民の「蔵」として

貴重な資料が収まる収蔵庫_市民の「蔵」

紀念館は、館名や展示資料に見られるように当時の世相を色濃く反映していますが、実物を学校教育に活用したことは注目に値します。開館時の資料は軍事関係1,308点、風俗関係315点、植物標本など2,164点の合計3,787点で、うち1,991点が陳列されていました（註3）。紀念館は児童をはじめ、日を限り町民にも公開され県内外からも視察が相次いでいます。その後、明治45年には長野県から通俗教育奨励金が交付され、次第に郷土資料の寄附も多くなり、大正中期には松本紀念館と改称しました。ここに、通俗教育の成立を背景に、教育陳列場的な施設から郷土博物館へと発展する姿が見えます。

紀念館から博物館へ。本町の小学校内から二の丸へ、さらに地蔵清水へ。再び二の丸へ。博物館は名称や所在地が変わっても、市民（町民）から資料を寄附され、それらをもとに学習活動を支える姿勢は100年のあいだ連綿として続いています。現在、市立博物館の収蔵資料は、民俗・歴史・美術など各部門を合わせ総計11万点に達しています。これらの資料は市民の財産－公共財産－であり、博物館は市民の「蔵」の役割を果たしています。

変わる博物館―より地域に根ざした活動を

1 特別展 ―「借り物」から「自前」へ

一般的に博物館（美術館）の展示には、常設展、特別展（企画展）などがあります。前者は文字通り常に設えた展示で、館によっては「固定展示」と揶揄されたりもするようです。後者は、年に数回、テーマに基づいて経費もある程度かけて開催する大規模な展示です。場合によっては、借用料を払い、パッケージ資料を他館から借用して開催する特別展もあります。

市立博物館の場合はどうでしょうか。特別展の在り方は時代とともに変わりました。私の知る限りですが、30年ほど前、首都圏などへ行くに時間もお金もかかったころは、首都圏ほかの博物館、美術館から資料を借用、展示し、市民に鑑賞する機会を提供することが特別展の役割の一つでした。私などは「博物館の資料や地元の資料で特別展をやらないの」と、質問されたりもしました。しかし、現在は、阿修羅像や永青文庫の名品を鑑賞したければ、多くの皆さんが遠く離れた開催地へ気軽に行ける時代になりました。年に数回、上野の博物館や美術館などの特別展を鑑賞する市民も珍しくありません。そういう時代を迎えた昨今、市立博物館の特別展は最少の経費で、市民が松本（学）の理解を深め、生涯学習に資する機会を提供しかつ市民の学習支援をすることにシフトしています。派手さこそありませんが、決して中央志向ではなく、地域に根ざし、地域の資料の掘り起こしが市立博物館の特別展の大きな仕事です。

「学都松本シリーズ3　学校のたから百景」は各小中学校所蔵の資料約170点を一堂に会したもので、新たな発見がありました。9月18日（土）から開催する「胡桃沢コレクションⅡ」は2～3ページで一ノ瀬学芸員が紹介しているように胡桃沢勘内が多彩な人びとと交流するなかで蒐集した資料が胡桃沢家から松本市に寄附され、15年度に次いでお披露目を兼ねて開催します。

市民の宝が展示された「学校のたから百景」会場

前者の場合、私立・県立学校もありますが、両者ともに学校や博物館が所蔵する市民の財産である資料を紹介し、様ざまな角度からスポットをあてる特別展です。「借り物」ではなく、いわば「自前」の資料で特別展を開催する、このように市立博物館の特別展は、地域に根ざす博物館としてあるべき姿に軸足を定めています。

2 「勧館学楽」対談―双方向の学びへ

第1回　博物館「勧館学楽」対談　中央右が柳澤氏

博物館では今年の4月から月1回のペースで、少々長い名称になりますが、《学都松本・博物館「勧館楽学」対談》を始めました。学都松本を創造するにあたり、博物館の事業として試みています。

当初、学芸員（職員）が講演、講義をしたらどうか、という話題になりました。私たち学芸員が講演をすると、視野の狭いタコ壷的学芸員は「上から目線」でかつ一歩通行的なことがままあります。さらに、従来から行っている、学芸員がある意味主役をつとめる講演、講義は今さら…、という心理も働きました、そこで、博物館に関連した分野で一所懸命に取り組んでいる市民と学芸員が対談し、そこに参加者も加わってまさに「侃侃諤諤」の話し合いをできる機会を設けることになりました。

対談相手は、第1回は前松本市基幹博物館基本計画策定委員柳澤孝夫氏、第2回は信州大学地域フォーラム会員の福嶋良晶氏、楽知ん見遊会代表の西森尚己氏、第3回は博物館友の会会長の横沢徳人氏、副会長の丸山年子氏、第4回は自然観察の会ひこばえ代表で博物館友の会会員の村上さよ子氏、第5回は今井小学校教頭の両角東平氏でした。それぞれ発想が豊かで実践に裏打ちされた発言が相次ぎ、会場からの意見、質問がされ、むしろ学芸員の方が勉強になります。また、参加者は30人前後、会場の雰囲気がアット・ホームで、私たちが意図した双方向に近いかたちで対談が行われています。

3 話をきく会―70年ぶりの復活

話をきく会には、多くの名士が松本に足を運んでいます。柳田國男をはじめ折口信夫（釋迢空）、渋沢敬三、武田久吉、新村出、金田一京助、八幡一郎、武者小路実篤、河東碧梧桐等々。「詳しくは知らないが、一度は名前を耳にしたことがある」と思われる人物たちでしょう。当時、限られた分野とはいえ指導的な立場にあった多彩な人物が松本に招かれ、実質10年前後にわたるこの会の活動は、開催回数40回、延べ出席者は800人にものぼっています。話をきく会は、松本に新しい豊かな文化の種子を播く役割を果たし、会に参加するのは自由で、話したいことや考えを勝手に話して参加者に聞いてもらい、批評もまた遠慮しないという雰囲気が醸し出されていたようです。しかし、会を支えた胡桃沢勘内が昭和15年に没すると、翌16年に開いた彼の追悼会でピリオドを打ちました。

今年はその勘内没後70年にあたります。そんな折り「胡桃沢コレクションⅡ」を開催するにあたり、勘内の令孫で近畿大学文芸学部教授の胡桃沢勘司氏から「話をきく会を復活できたらいいね」というお話しをいただきました。関係者のあいだでは半ば伝説？と化した会で、当時は博物館主催ではないので、ウーン、と迷いました。館内で検討し、学都松本の礎の一端を築いた胡桃沢勘内や池上喜作らの営みを、復活、継承することは博物館事業に相応しいのでは、ということになりました。ちなみに会の名称は《復活「話を聞く会」》です。

第1回は、「胡桃沢コレクションⅡ」開催中の9月19日（日）に市立博物館で早稲田大学文学学術院教授鶴見太郎氏を迎えて、講演会「信頼の往還―郷土研究の有るべき姿」を開きます。

おわりに

松本市の博物館のレーゾン・デートル。何よりも、ふるさとに生きた先人や私たちの営みの証し―有形・無形のモノ―を蒐集し、整理・保管すること。これらを貴重な財産として次代に伝承し、市民の学びに供すること。この意味では、いつまでも「変らない博物館」でありたいと思います。

特別展の在り方や新たな事業、復活する事業。市立博物館は地域の、市民の博物館ですから、地域にこだわるなかで市民の学びの環境を整えることが大切です。この意味では、新たな事業・復活する事業も含め時間の流れのなかで「変わる博物館」でありたいと思います。

（課長補佐・学芸員／窪田雅之）

〈註〉

（註1）拙稿「教育と文化の広がり」（『保存版ふるさと松本』郷土出版社 平成18年）

（註2）話をきく会については、『胡桃沢コレクションⅠ』松本市立博物館 平成15年などを参照されたい。

（註3）『明治三十七、八年戦役紀念館』松本書籍組合 明治39年

9月21日は 松本市博物館の日

今年は9月20日(月・祝)に松本まるごと博物館全館が無料開館!

明治39年9月21日、松本に博物館が誕生しました。この日を記念して、9月20日(月・祝)は、松本まるごと博物館全館が無料開館となり、記念事業を実施します。

松本市立博物館から　☎0263-32-0133

胡桃沢コレクションは、松本地方の民俗学をはじめ文化芸術に多大な業績を残した胡桃沢勘内が多彩な人物との交流によって蒐集し、胡桃沢家三代によって守り伝えられてきた学術的にも価値の高いものです。

特別展「胡桃沢コレクションⅡ」

会　期　9月18日(土)～11月7日(日)
会　場　松本市立博物館
観覧料　大人200円・小人100円

講演会 復活「話をきく会」第1回 演題「信頼の往還―郷土研究の有るべき姿」

日　時　9月19日(日) 午後1時30分～3時
会　場　松本市立博物館
講　師　鶴見太郎氏
(早稲田大学文学学術院教授)

子規忌

日　時　9月19日(日)
会　場　松本市立博物館

第6回学都松本・博物館「勧館学楽」対談 テーマ「松本平は太古、一面湖水だった! ―現在も伝わる湖水伝説―」

日　時　9月25日(土) 午前10時30分～正午
会　場　松本市立博物館
対談者　倉澤聡氏(都市計画家)
竹内靖長(博物館学芸員)

重文馬場家住宅から　☎0263-85-5070

お茶席の会

日　時　第6回 9月20日(月・祝)午前10時～正午
おしゃれ茶道の会(裏千家)
第7回 10月31日(日)午前10時～正午
松風の会(表千家)
参加料　観覧料
大人300円・中学生以下無料

はた織り体験教室

裂布・竹ひごなどを使って布を織ります。

日　時　第4回　9月26日(日)
第5回　10月24日(日)
午前のクラス　10時～12時
午後のクラス　1時～3時
会　場　馬場家住宅門長屋
受講料　各講座1,000円(観覧料込み)
申込み　電話で馬場家住宅まで

布ぞうり作り体験教室

日　時　第1回　9月26日(日)
第2回　10月24日(日)
午前10時～午後3時
場　所　馬場家住宅主屋
受講料　各講座1,500円(観覧料込み)
申込み　電話で馬場家住宅まで

窪田空穂記念館から　☎0263-48-3440

短歌講座

日　時　9月12日(日) 午後1時40分～3時50分
会　場　窪田空穂生家
講　師　島田修三氏
受講料　1,500円
申込み　事前に窪田空穂記念館まで

空穂生家将棋教室

期日及び講師

開催日	時　間	指導者	対象者
9月18日(土) 10月9日(土) 10月30日(土)	午後1時30分 ～午後4時	地元 指導者	小中学生
10月2日(土)	午前10時10分 ～正午	プロ棋士 (インターネット利用)	小中学生
11月6日(土)	午前10時 ～午後4時	プロ棋士	午前:小中学生 午後:小中学生・大人

会　場　窪田空穂生家(10月2日のみ情報創造館)
受講料　無料
申込み　各教室の実施当日までに電話で窪田空穂記念館まで

藤澤八段囲碁教室

日　時　10月9日(土) 午前10時10分～正午
会　場　窪田空穂生家
講　師　藤澤一就八段、地元指導者
受講料　無料

企画展「歌人への道―窪田空穂の青春―」

窪田空穂の生い立ちから、文学との出会いや婿養子時代のことなど、歌人窪田空穂の青春時代を、作品、書簡、日記や写真などをとおしてたどります。

会　期　9月25日(土)～11月28日(日)
会　場　窪田空穂記念館
観覧料　大人300円・中学生以下無料

考古博物館から　☎0263-86-4710

秋季企画展「松本市の古墳時代―古墳の中の装飾品」

松本市内には多くの古墳が存在し、副葬品は種類豊富に埋葬されています。古墳の中に納められた、きらきらと輝く勾玉やガラス玉など様々な装身具(アクセサリー)を紹介します。

会　期　9月18日(土)～11月23日(火・祝)
会　場　考古博物館　第2展示室
観覧料　大人200円・中学生以下無料

「縄文土器づくり講座」(全2回)

市内で出土した縄文土器をモデルに粘土をこねて成型します。方法は当時と同じ輪積み方法。乾燥後は野焼きという方法で、窯を使わずに焼き上げます。

第1講　製作(10月上旬)
第2講　野焼き(11月上旬)

山と自然博物館　☎0263-38-0012

企画展「広告にみる日本の登山」

日本山岳会年報『山岳』の巻末に掲載されている大正から昭和にかけての広告と実物資料を通して日本の近現代登山史を紹介します。

会　期　10月11日(日・祝)まで
会　場　山と自然博物館　2階常設展示室
観覧料　大人300円・中学生以下無料

鳴く虫観察会

初秋の夜、松本市・アルプス公園では多くの虫が鳴いています。どんな虫が鳴いているのか、虫の調べを聞いてみませんか。

日　時　9月11日(土)
午後6時～8時
(集合／午後6時 山と自然博物館)
会　場　松本市アルプス公園内
対　象　一般及び小学4年以上
募　集　30人(要申込。定員になり次第締め切り)
参加料　100円
持ち物　懐中電灯・防寒着・防虫スプレー・雨天の場合は雨具。

松本民芸館から　☎0263-33-1569

企画展「日本の美 漆器展」

丸山太郎の蒐集した漆器は、職人の確かな技によって庶民のために作られた、温かく素朴なものばかりです。日常生活の中で使い込まれてきた漆器は、見る人を惹きつけます。

会　期　9月7日(火)～11月14日(日)
観覧料　大人300円・中学生以下無料

学習講座 講演会「柳宗悦の思想の力 ―いま求められる『複合の美』の平和思想」

大戦中も民族主義に組しなかった稀有の思想家・柳宗悦の平和論を語ります。

日　時　10月24日(日)午後1時～午後3時
会　場　松本民芸館
受講料　大人300円(通常観覧料)
中学生以下無料
講　師　中見真理氏(清泉女子大学副学長)

時計博物館から　☎0263-36-0969

企画展「かぐや姫の物語」～國學院大學 学びへの誘い～

國學院大學が所蔵している「竹取物語絵巻」をはじめ、江戸時代の写本や研究書などを展示します。

会　期　9月18日(土)～9月26日(日)
※9月21日は休館日
会　場　松本市時計博物館　3階企画展示室
観覧料　企画展は無料(ただし常設展は有料)

あとがき

今年の「松本市博物館の日」は、各館でこの日だけの特別公開(モノ・場所)を実施します。企画展や普段は立ち入ることのできない場所の見学、バックヤードツアーなど、楽しい企画が満載です。松本まるごと博物館で、好奇心を探検してみてください。　(Y.T)

あなたと博物館 No.170
発行年月日／平成22年9月1日　編集・発行／松本市立博物館
〒390-0873 松本市丸の内4番1号　Tel.0263-32-0133
URL:http://www.matsu-haku.com
e-mail : mcmuse@city.matsumoto.nagano.jp　印刷　川越印刷株式会社